

2025年1月19日 主日礼拝 降誕節 第4主日

説教題：「**決められない人生**」

聖書箇所：ルカによる福音書18章18 - 30節 (144頁)

説教者：秀島牧師 招詞：讚美歌93 - 1 - 26 交読詩編：詩編105編1 - 6節 (115頁)

讚美歌：83/205 (七日の旅路) / 279 (ふるさとを離れて遠く) / 197 (ああ主のひとみ) / 27

「今週の聖句」〔**これを聞いて、イエスは言われた。「あなたには欠けているものがまだ一つある。…」**〕 (ルカ伝18:22)

「牧師室の窓」 「阪神の震災日より三十年テントの礼拝験 (まぶた) に浮かぶ」

「ストーブの石炭の火の赤々と礼拝の日々大寒近づく」

(1)皆様、おはようございます。本日は2025年の3回目の主日礼拝、今年は21世紀の第2四半期のスタートです。私たちは20世紀に生まれ育ち、いま21世紀に生きています。現在の私たちを取り巻く環境・状況はまことに不確実な状況となっています。地震や風水害の自然災害と隣り合わせ、加えて、気候変動や世界貿易の縮小化により、食料品の安定供給が損なわれようとしています。直近では、アメリカ新大統領の就任、スラブ地域や中近東での戦争の行方などがあり、今年はその重要な節目の年であると考えられます。不確実性に対応・対処するためには、「不測事象対応計画(contingency plan/コンティンジェンシー・プラン)」を立て訓練することが必要です。

その様な時に、聖書の御言葉を聴くことは尚一層大切です。聖書は1回2回読んでも理解できないことが多々あります。私たちが数回読んでも理解できないから、難しいと決めてはなりません。聖書に限らず、繰り返し読む、考えることが大切です。よく考えないで、行動することは「的はずれ」になってしまうのです。「的はずれ」で良い訳がありません。

旧約聖書の申命記6章には次の様に書かれています。「〔申命記6:6)今日(きょう)私が命じるこれらの言葉を心に留め、子供たちに繰り返し教え、家に座しているときも道を歩くときも、寝ているときも起きているときも、これを語り聞かせなさい。(6:7)更に、これをしるしとして自分の手に結び、覚えとして額に付け、あなたの家の戸口の柱にも門にも書き記しなさい。〕」ここには、くどいほどに、只管(ひたすらに)、忠実であることが求められているのです。中途半端では、物事を成し遂げることができません。きょうの聖書箇所から、私たちの生活を見直しては如何でしょうか。

きょうの聖書箇所の25節には「らくだが針の穴を通る方がまだ易しい」と書かれています。この言葉は、きょうの聖書箇所の直前に書かれている17節には「〔(ルカ伝18:17)はっきり言うておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。〕」との対比で書かれています。併せて、理解を深めましょう。

(2)きょうの聖書箇所の話は、マタイ伝19章とマルコ伝10章にも同様な記事があります。ルカ伝が「金持ちの議員」と書かれており、マタイ伝では「金持ちの青年」、マルコ伝では「金持ちの男」が登場人物となっています。いずれも「永遠の命を得る方法/受け継ぐ方法」がテーマであり、「子供を祝福するイエス・キリスト」の話と一体になっています。イエス様が十字架の上で命を亡くされ、復活・昇天をされた後の初代教会のクリスチャンにとっては忘れることができない場面であったのです。「永遠の命」という人間には重要なテーマと、「お金」という社会生活を維持するためには不可欠のテーマとが、同時並行的に書かれている箇所です。この2つのテーマをイエス様はどの様にお考えになられたのでしょうか。

ルカ伝ではこの登場人物は「ある議員」と書かれています。「議員」とはユダヤの最高法院(サンヘドリンと言います)の議員で、全国では70人おり、主に宗教行事の執行と裁判官(民事裁判・刑事裁判を担当)としての仕事を担っていました。従って、ユダヤ社会では最も位の高い階級の人であり、多額の財産を持っている人です。その人がイエス様に尋ねたのです。

18節です。〔(ルカ伝18:18)…「善い先生、何をすれば永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか」…〕ここには「善い先生」と呼び掛けています。後に書かれている文章から判読しますと、決して皮肉の気持ちではなく、ユダヤ教の教えと日常生活との狭間にあって人知れず悩んでいる人物と推測されます。イエス様の存在を伝え聞いたのでしょう。この人ならば教えてくれるかもしれない、疑問に思っていることを聴いてみたい。自己紹介の挨拶もなしに、はやる心で、「善い先生」と口に出して、聞いてしまったのです。…「何をすれば永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか」

(3)この議員のストレートな質問に対して、イエス様も直球勝負で答えられます。19節です。

〔(18:19)…「なぜ、わたしを『善い』と言うのか。神おひとりのほかに、善い者はだれもいない。〕イエス様はこの議員に対して、「的はずれ」な質問をしてはいけませんよ、自分でよくよく考えなさいと言っておられるのです。そのことが20節に書かれています。

〔(18:20)『(7戒)姦淫するな、(6戒)殺すな、(8戒)盗むな、(9戒)偽証するな、(5戒)父母を敬え』という掟をあなたは知っているはずだ。〕ここには神がモーセを通してイスラエルの人々に与えた10の戒め「十戒」の一部が書かれています。「十戒」については旧約聖書の「出エジプト記」20章と「申命記」5章に記されています。その「十戒」のうち、人間の社会生活に係わる5項目が述べられています。この議員が、つまり、裁判官であれば、民事裁判の基本となる、社会生活の中で最も重要な戒律を知っていますか、守っていますか、と、イエス様は問われたのであります。この言葉の言外には、「あなたは議員として、人々に愛情を注いで、使命を果たしていますか。あなたはどうか生きるのか。」と質問されたのでした。

…皆様に対しても、私に対しても、質問されているのです。イエス様が私たちに問われていることは「あなたはどうか生きるのか」という質問で

す。

ルカ伝10章の終わりにマルタとマリアの話が書かれています。何と書かれているのでしょうか。〔(ルカ伝10:41)主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。/(10:42)しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。〕皆様の耳の奥に、イエス様は呼び掛けておられるのです。

(4)併し、議員の答えは21節です。〔(18:21)すると議員は、「そういうことはみな、子供の時から守ってきました」と言った。〕これでは自己中心的な答え方です。サンヘドリン議員としての職責が何であるのかに苦悩してきた様子は微塵も感じられず、一人の人間として、社会人として何をすべきか、という思いが欠落し、育ってはいませんでした。

…この人は、謂わば、学歴はあっても、物事を自分で考える思考力がなかったのです。日本の社会も一種の学歴社会の様に見えますが、外国では全く通用しません。いや、既に、日本の社会でも通用しなくなっています。腕に技術を持ち、技術と経験を磨き、外国人労働者を迎え入れ、地方を活性化し、平和で豊かな国を造ることが、21世紀の第2四半世紀の日本の課題であると思えます。考えてみれば、日本の弥生時代や古墳時代と同じ様に、外国人が増えるのです。その為には、若い世代には、英語をしっかりと学ぶことが不可欠です。私はベンチャービジネス・企業をサポートする仕事の一部に従事してきました。夢を追いかけ、実現しようとする人たちは、年齢に係わらず、性別や学歴や職歴に係わらず、熱意と情熱と七転び八起きの精神を持って、死の陰の谷、魔の川を乗り越えて、着実に進んでゆくのです。

日本基督教団も東京教区も北支区もぼんやりとしてはいけません。来たるべき時代に為すべきことを考えて、頭を使い、体を動かし、汗をかかねばなりません。

(5)次に22節を見てみましょう。〔(18:22)これを聞いて、イエスは言われた。「あなたに欠けているものがまだ一つある。持っている物をすべて売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」〕イエス・キリストのこの質問、或いは、命令を皆様はどの様に理解されるでしょうか。

この文章を4つに分けて、「起・承・転・結」と考えれば、一番重要なのは最後の「わたしに従いなさい」ですから、「欠けているものがまだ一つある」ことも「持っている物をすべて売り払う」ことや、「貧しい人々に分けてやる」ことが絶対条件になっている訳ではありません。人間は物事を決断する時に、「条件に気を取られる」と判断ができなくなってしまう。所謂、「条件闘争」、相手よりも自分が有利な立場を得たいという考えが人間の思考力を、判断力を低下させるのです。この議員がイエス様に「何をすれば永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか」と尋ねた、そのことが何時の間にか、お金や財産の金額の計算にすり替わり、所謂「値踏み」が起きて、つまり「永遠の命」をお金の金額で測ってしまったのです。

…私は信徒の職業人時代に、お金の係わる仕事、外国為替に関する仕事、会計学に係わる仕事をしてきましたので、お金の価値や数字の意味を身に染みて叩き込まれました。一方で、金額で測ることのできない大切なものも十分に理解してきました。「誠実であること」「約束を守ること」「信頼に応えること」「汗を流して努力すること」「助け合うこと」などなどは、金額で測ることはできませんが、確実に存在することを実感し、そのことに感謝してきました。

皆様はこの22節をどの様に理解されますでしょうか。

(6)23節を見てみましょう。〔(18:23)しかし、その人はこれを聞いて非常に悲しんだ。大変な金持ちだったからである。〕きょうのこの主人公の苦悩が記されています。この主人公は自分の人生を決断することができなかつたのです。「決められない人生」の始まりです。併し、イエス様は27節で〔(18:27)…「人間にはできないことも、神にはできる」と言われた。〕のです。言葉を変えて言えば、「神はあなたを見捨てない」ということです。先週の「交わり礼拝」でサムエル記下12章を学びました。その12章と表裏一体である詩編第51編に書かれているダビデの深い悔い改めを学びました。悔い改めるダビデを主なる神は赦されたのです。きょうの主人公の「議員」の仕事が裁判官であるならば、「人間にはできないことも、神にはできる」ことを理解できたであります。そのことこそがきょうの聖書箇所を始めと終わりの、18節と30節とに書かれている「永遠の命を受け取る」ことに他なりません。私たちは「決められない人生」から「永遠の命を受け継ぐ」人生へと変えられることができるのです。

・・・お祈りします。

主なるキリストの神様。私たちは新しい一年を歩み始めています。この年も、聖書の御言葉によって養われることに感謝いたします。御言葉に耳を傾け、悔い改め、神のもとに立ち帰り、日々を過ごして参りたいと願っています。一昨日の1月17日には、阪神淡路大震災から30年が経過しました。震災で命を失われた方が、負傷された方が、心痛む方が数多くおられます。平安と慰めがありますように。この地上で戦争が起きている地に住む人々に、自然災害で困難の中にある人々に、生活の中で困っている人々に、平安と慰めがありますように。教会に連なる一人ひとりに、地域で生活している、働いている一人ひとりに、み恵みがありますように。

イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

〔新共同訳(ルカ伝18:18)ある議員がイエスに、「善い先生、何をすれば永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか」と尋ねた。/(18:19)イエスは言われた。「なぜ、わたしを『善い』と言うのか。神おひとりのほかに、善い者はだれもいない。/(18:20)『⑦戒/姦淫するな、⑥戒/殺すな、⑧戒/盗むな、⑨戒/偽証するな、⑤戒/父母を敬え』という掟をあなたは知っているはずだ。/(18:21)すると議員は、「そういうことはみな、子供の時から守ってきました」と言った。(18:22)これを聞いて、イエスは言われた。「あなたに欠けているものがまだ一つある。持っている物をすべて売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」/(18:23)しかし、その人はこれを聞いて非常に悲しんだ。大変な金持ちだったからである。/(18:24)イエスは、議員が非常に悲しむのを見て、言われた。「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。/(18:25)金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。」/(18:26)これを聞いた人々が、「それでは、だれが救われるのだろうか」と言うと、/(18:27)イエスは、「人間にはできないことも、神にはできる」と言われた。/(18:28)するとペトロが、「このとおり、わたしたちは自分の物を捨ててあなたに従って参りました」と言った。/(18:29)イエスは言われた。「はっきり言うておく。神の国のために、家、妻、兄弟、両親、子供を捨てた者はだれでも、/(18:30)この世ではその何倍もの報いを受け、後の世では永遠の命を受ける。」〕